

吹田溺愛主義⑯ 吉志部に残る「人身御供」の記憶

新山ひろし

吉志部神社の奇祭 「どんじ祭り」を考える

吹田市立博物館でのことである。吉志部神社の「どんじ祭り」が再現されており、

少女の展示が目に入った。これ、どこかで見たことがある。もしかして、この少女たちは、神に捧げられる「人身御供」なのではないだろうか。というのも、以前に、

頭に「さんだわら」を乗せた少女の展示が目に入った。これ、どこかで見たことがある。もしかして、この少女たちは、神に捧げられる「人身御供」なのではないだろうか。

うか。というのも、以前に、大阪の西淀川区にある野里住吉神社の「一夜官女」とい

う人身御供の伝説を取り材したことがあり、その少女たちの姿とともに似ているた

である。「どんじ祭り」は、人身御供の記憶を留める祭なのだろうか。今回は、吉志部

の当番に当たる主人が神饌(神様の食事)を作る役割を

担つ。主食は、半球状のむし皮のままで長方形に切って、七個ずつ21本の細い竹の串

米、副食は、なす・栗・柿を皮に刺したものである。この神饌のことなぜか「どんじ」と呼ぶ。「どんじ」とは「生贊」ということなのだろうか。

四人の少女が正装し、頭に「さんだわら」をのせて行列する。

この4人の少女たちが人身

神社に残る「人身御供」の記憶に迫つてみることにしよう。そもそも、「どんじ祭り」とは、どんな祭りなのだろうか。この祭は、毎年、10月17日に吉志部神社で行われる秋の収穫の祭と言われる。旧村である東村・小路村・南村の旧家七軒でつくった「どんじ講」があり、「どんじ祭り」のしきたりが守られてきた。「どんじ」とは、「当地」つまり、当番である。その年

の当番に当たる主人が神饌(神様の食事)を作る役割を担つ。主食は、半球状のむし皮のままで長方形に切つて、七個ずつ21本の細い竹の串米、副食は、なす・栗・柿を皮に刺したものである。この神饌のことなぜか「どんじ」と呼ぶ。「どんじ」とは「生贊」ということなのだろうか。四人の少女が正装し、頭に「さんだわら」をのせて行列する。この4人の少女たちが人身

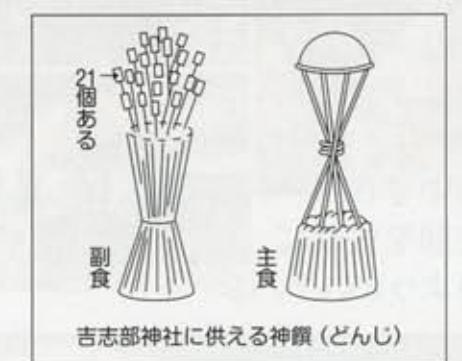
神饌のことなぜか「どんじ」と呼ぶ。「どんじ」とは「生贊」ということなのだろうか。四人の少女が正装し、頭に「さんだわら」をのせて行列する。この4人の少女たちが人身



吉志部神社



この稚児たちの行列は、人身御供を再現したものだろうか
(吹田市立博物館:提供)



の物語にとても似た伝説がある。吉志部神社の側の釣迦ヶ池にも残されている。

吉志俊守の大蛇退治の物語

釣迦ヶ池は、七世紀の頃、行基によつて造られた池だ

が、いつからか大蛇が暴れまわり、村人たちは、毎年、当番で娘を人身御供として蛇に捧げていた。ある日、吉志俊守が釣迦ヶ池で足を洗おうとしたら、小さなへビが指先に食いついてきた。

吉志俊守が釣迦ヶ池で足を洗おうとしたら、小さなへビが指先に食いついてきた。

吉志俊守が釣迦ヶ池で足を洗おうとしたら、小さなへビが指先に食いついてきた。

吉志俊守が釣迦ヶ池で足を洗おうとしたら、小さなへビが指先に食いついてきた。

吉志俊守が釣迦ヶ池で足を洗おうとしたら、小さなへビが指先に食いついてきた。

吉志俊守が釣迦ヶ池で足を洗おうとしたら、小さなへビが指先に食いついてきた。

吉志俊守が釣迦ヶ池で足を洗おうとしたら、小さなへビが指先に食いついてきた。

吉志俊守の大蛇退治の物語は、静かになつた。この釣迦ヶ池における大蛇の物語は、登場人物と場所は違うが、野里住吉神社の「一夜官女」の物語とほとんど同じである。

大蛇とは、どうやら、暴れまわる水、自然の猛威を象徴しているようだ。

吉志俊守は、大蛇とほとんど同じである。大蛇とは、どうやら、暴れまわる水、自然の猛威を象徴しているようだ。

吉志俊守は、大蛇とは、どうやら、暴れまわる水、自然の猛威を象徴しているようだ。

何度も、動物を生贊とする習俗を見てきた。その例を検証しながら、さらに、人身御供に迫つてゆきたい。

アシアでは、動物を生贊にするのは自然のことだ

何度も、動物を生贊とする習俗を見てきた。その例を検証しながら、さらに、人身御供に迫つてゆきたい。

アシアでは、動物を生贊にするのは自然のことだ

何度も、動物を生贊とする習俗を見てきた。その例を検証しながら、さらに、人身御供に迫つてゆきたい。

アシアでは、動物を生贊にするのは自然のことだ

何度も、動物を生贊とする習俗を見てきた。その例を検証しながら、さらに、人身御供に迫つてゆきたい。

アシアでは、動物を生贊にするのは自然のことだ

何度も、動物を生贊とする習俗を見てきた。その例を検証しながら、さらに、人身御供に迫つてゆきたい。

アシアでは、動物を生贊にするのは自然のことだ

は何度も、動物を生贊とする習俗を見てきた。その例を検証しながら、さらに、人身御供に迫つてゆきたい。

アシアでは、動物を生贊にするのは自然のことだ

は何度も、動物を生贊とする習俗を見てきた。その例を検証しながら、さらに、人身御供に迫つてゆきたい。

アシアでは、動物を生贊にするのは自然のことだ

は何度も、動物を生贊とする習俗を見てきた。その例を検証しながら、さらに、人身御供に迫つてゆきたい。

アシアでは、動物を生贊にするのは自然のことだ

は何度も、動物を生贊とする習俗を見てきた。その例を検証しながら、さらに、人身御供に迫つてゆきたい。

原始の衝動を蘇らせている。祭祀用としては、古代人のワイルドな衝動を自身の体の中に発見することに違いない。

吉志部神社の奥田宮司に「今年もどんじ祭りは、行われますか」と声をかけると「もちろん。10月17日に、例年通り行いますよ」と宮司は力強い言葉で応えられた。再建中の本殿が秋の光をまぶしく照りかえしていた。

吉志部神社の奥田宮司に「今年もどんじ祭りは、行われますか」と声をかけると「もちろん。1